

第2回 大橋川景観アドバイザー会議 議事要旨

【日時及び場所】

日 時：平成25年5月9日（木）

場 所：島根県民会館307会議室

【出席者】

大橋川景観アドバイザー委員

足立委員、飯野委員、井ノ上委員、片寄委員、松本委員、吉田委員、館委員

事務局

出雲河川事務所

【議事次第】

開 会

挨拶（出雲河川事務所長）

座長挨拶

議 事

閉 会

【配付資料】

議事次第

席次表

資料－1 第1回大橋川景観アドバイザー会議 規約

資料－2 『大橋川改修に伴う河川構造物等の景観設計指針』作成の流れ
（別冊資料）大橋川改修に伴う河川構造物等の景観設計指針（案）

資料－3 大橋川竹矢矢田地区護岸整備説明資料

資料－4 大橋川向島地区護岸整備説明資料

【議事概要】

(資料2について)

- ・護岸等の施設に対する景観設計指針のみではなく、背後の風景（建物や看板）もあわせて考えていく必要がある。
- ・背後地との堤防、水辺の高さ関係を理解するためにも、各区分毎に設計の基本となる断面図を指針に整理しておく必要がある。
- ・景観設計方針（材料や細部処理方法）の個別議論はスケジュールを考えると非常に難しい。例えば天端処理や端部処理の事例を整理するなどし各区分や各施設の特徴を踏まえ設計方針を決定していくなど、ストーリーが見えるようにしてほしい。護岸の色合いや素材を選定する際には、松江市景観計画に定める色彩基準など既往の基準等を参考としてもよい。
- ・江戸時代から現在に至る間で工事を実施したところでも経年変化により周囲になじんでいる良い事例もある。逆に、維持管理手法によっては素材を活かせていない事例も見受けられる。そのような長期的に景観の変化を整理しつつ材料調達を検討することも重要である。
- ・ワークショップは主催者側が何を目標とするのか明確にする事が重要。

(資料3について)

- ・景観の上下流バランスを確認するため、写真等で現状の護岸状態が連続して見られる資料があると良い。
- ・神事などの地域行事や水辺との関わり、日頃どのように利用されているのか確認しておくこと。

(資料4について)

- ・くにびき大橋からのビュースポットは大切なポイント。和と洋が調和したようなデザインが良いのではないかな。
- ・都市的な建物や空間が広い画一的な形状にならないようにアクセントが必要。天端がやわらかく見えるよう護岸から垂れ下がるような植生があっても良い。
- ・小段・階段護岸がホーランエンヤの栈敷席、コンサートが出来るような場所になれば良いと思う。法面（芝部）に切石をはめ込むことで、緩傾斜部と小段部のつなぎ

が良くなるし、階段やベンチとしても利用できる。

- ・階段の袖を広くすると袖部を無くすことで、斜面となじみやすくなる。
- ・階段への取付護岸を折れ曲がりにするすることで、和風感となる。
- ・階段部に丸みを持たせたり、階段を下りたところに捨石や如泥石を配置するなど、水辺に近づける様な事も考え水際に変化を持たせると良い。
- ・水際の散策路は一連で繋げた方がよい。
- ・護岸に自然石を利用するのであれば、石積み護岸の特徴を活かすために、積み方などを統一しすぎて単調とならないよう配慮が必要。
- ・区間の景観テーマの統一感の中にバリエーションを持たすことも必要。
- ・昔から利用されている素材や材料を少しでも使う、または残すことが大切である。
- ・護岸材料の景観検討において、護岸部、階段部、平場部を一括して素材の採用・不採用と言い切るのはどうか。護岸部分は島石のイメージが良いと思うが、階段部や平場部には来待石を活用する等の工夫があると良い。